

# 第10期福祉のまちづくり推進協議会の審議事項等について

## 福祉のまちづくり推進計画の概要

- 福祉のまちづくりに関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための基本となる計画
- 現行計画の計画期間：平成26年度～30年度
- 計画の目指すべき方向
  - ・すべての人が安全、安心、快適に暮らし、訪れることができる、UDを基本とした福祉のまちづくりを進める
  - ・オリンピック・パラリンピック大会開催も見据え、UD先進都市東京の実現に向け、一層の施策の充実に努める
- 福祉のまちづくり施策の基本的視点（各局102事業で構成）

### I 円滑な移動、施設利用のためのバリアフリー化の推進

⇒ 公共交通・建築物・道路・公園等のバリアフリー化、面的な整備、駅前放置自転車対策など

### II 地域での自立した生活の基盤となるバリアフリー住宅の整備

⇒ 都営住宅等公共住宅の整備、高齢者・子育て世帯等に配慮した民間住宅の整備促進

### III 様々な障害特性や外国人等にも配慮した情報バリアフリーの充実

⇒ 外国人等に配慮したまちなかでの案内情報の充実、手話のできる都民育成事業 など

### IV 災害時・緊急時の備えなど安全・安心のまちづくり

⇒ 災害時の要配慮者の支援体制の整備、日常生活で起こり得る事故防止対策

### V 心のバリアフリーに向けた普及啓発の強化・社会参加への支援

⇒ 施設・設備の適正利用の推進、UD教育、ヘルプマークの推進等障害者等の社会参加支援 など

## 第9期の審議等における主な意見

<平成25年7月 意見具申>

★ ハード面での整備は、全国を上回るなど着実に進展している一方、情報バリアフリーや思いやりの心の醸成など、ソフト面での取組においては、引き続き充実に努めていくことが必要な状況

<推進協等での委員意見>

- ★ 日本は外国に比べて本当にソフト面での取組が遅れている
- ★ ハードが整備できなければ、そこはソフトできちんと対応しないと人権を守ることができないという整理が重要
- ★ 計画には、ハードの事業がほとんどであり、ソフト面の事業が少ないので、力を入れて取り組んで欲しい
- ★ 主要駅から各施設への誘導案内は、現在有力とみられる技術により音声ガイドの実験を展開して欲しい
- ★ 鉄道、バス、店舗等での対応について、説明の仕方などの教育を具体的に行っていくべき

※第9期 閉会時 局長あいさつ

「情報BFを充実させることや、心のBFを推進していくなどソフト面での取組強化をしっかりと進めていきたい」

## 審議テーマ（案）

### ◆ 情報バリアフリーの充実に向けて

- ・障害者のみならず、高齢化社会を見据えると、誰もが難聴者、弱視者となりうる
- ・すべての人がまちなかへの外出に必要な情報を適切な時期に容易に入手できる環境が未整備
- ・新規のICT技術などを活用し、多様な情報伝達方法の整備促進を図ることが必要

⇒ 多様な情報提供に必要な配慮や手法等を検討

### ◆ 思いやりの心を醸成するための心のバリアフリーの推進に向けて

- ・誰もが相互に多様な個性を尊重することや他者を思いやることができ、まちなかで困っている人を見かけたとき、自然に気遣い、声をかけ、みんなが協力して手助けできる社会となっていない
- ・障害者の差別解消への社会的気運が高まりつつある
- ・UDに係る学習機会の充実、店舗等での接客向上など普及啓発の強化が必要

⇒ 心のBFに向けた普及啓発を効果的に進めるための配慮や手法等を検討

※ 長期ビジョン 中間報告案

「情報バリアフリーや思いやりの心の醸成などソフト面の取組を推進」

<報告事項>

□ 平成21年福祉のまちづくり条例改正の効果検証

・小規模の整備基準等にかかる区市町村の運用状況について、調査・ヒアを実施

## 今後のスケジュール

平成26年10月30日 第1回推進協議会開催

11月下旬～12月中旬 第1回専門部会開催

以降、専門部会を3回程度開催（平成27年2月、6月、9月）

平成27年9月予定 推進協議会 意見具申